ホシハジロ（カモ科）　全長 45 センチ

大仙市強首にある乙越沼（おとごえぬま）は、神宮寺の大浦沼とそっくりな沼である。

旧雄物川の河跡湖であり、地形は三日月形で長さは僅かに小さいくらい。兄弟と言ってもいいくらいです。

ここも、渡り鳥にとって旅の途中の大事な中継地点となっているようです。マガモやオナガガモなどの冬鳥たちがゆっくりと羽根を休めていた。この中に、30 数羽のホシハジロが見つかった。殆どがクチバシを背中の羽に刺し込みながら、プカプカと浮かんでいる。

手前がオス、奥の２羽はメスでお昼寝中。

寝ているのだろうか、浮いた体は風に揺れながら行ったり来たり。ズームで眺めると、時々目を開け周囲の状況を確認している。

そうか、完全に寝ている訳ではないのだ。誰も頭を上げてくれないので、じっくりと待つことに。やっと 1 羽のメスが泳ぎ始めてくれた。すると、徐々に他の仲間もお昼寝の時間が終わったかのように活発に動きだした。カルガモの群れの中に割込んでいくものや、伸びをするもの、バタバタと羽ばたかせるものなど、本来の自由行動に戻りました。

やっとお昼寝が終わり、泳ぎだした。

右がメス。目が白く見えるのは瞬膜です。

沼の近くには民家もあるが、ほとんど車や人影も見えず、ゆったりとした時間が流れています。

漢字で星羽白と書くが、羽白は分かるが星とは何だろう。大橋弘一著「鳥の名前」によると、ホシは背や腹の横斑模様の事を指しているそうだ。

オスの目は赤く、メスは黒い。

奥のメスが脚をばたつかせた。水掻きは弁足と呼ばれる形です。